

公文類聚第六編卷之五十九

社寺門宗教附

神社祀典附

十五年一月九日

内務省東京府一達各通

日枝神社 祭神大山咋命

東京府下麹町區永田町鎮座

右官幣中社ニ被列候條此旨相達候事十五年一月九日

内務省上申

東京府府社日枝神社社格昇進之儀ニ付別紙ノ通府

知事竝該社祠官ヨリ上申有之取調候處古社ニハ無

之候得共太田氏以來皇居之地ノ鎮守ナル事ハ別紙

取調書ノ如ク明著ニ候付テハ延曆遷都以來追々京

都近傍ノ神社ヲ以テ廿二社ト相定御崇奉ノ禮典ヲ
 被行候舊蹤モ有之候ニ付上申ノ旨難默止ト存候且
 東京内官社之義ハ僅ニ靖國神社ノ別格社ニ止リ未
 々官幣社無之候條旁特別ノ御詮議ヲ以官幣中社ニ
 被列候様相成度此段及上申候也 十四年十一月廿五日

東京府下府社日枝神社事跡概畧

府下日枝神社ニ祭ル所之神ハ原来僧圓仁大慈覺ノ武
 藏國入間郡仙波ニ星野山無量寺ヲ創立セシ時勸請
 セシ者ナルヲ文明年中太田道灌遷シテ江戸城ノ鎮
 守トス(其項ノ社地ハ今ノ梅林坂ノ邊ナリシト云ヘ
リ)德川家康其城ニ迁リテヨリ紅葉山ニ新社ヲ營シ
 テ奉崇ス爾後城外ナル貝塚ノ地ニ迁ス(俚俗ニ元山
王ト稱スル地ナリ)迁座ノ年曆詳ナラス(承應三年回

祿ノ後勝地ナルヲ以テ今ノ永田町ノ地ヘ社宇ヲ造
 立ス德川家代々ノ産土神トシテ崇敬淺カラザリナリ
 右紫ノ一本江戸名所記江戸砂子江戸名所圖會等
 ノ説ヲ參取ス

東京府上申 内務省宛

府下麹町區永田町二丁目日枝神社祠官平山省齋ヨ
 リ社格昇進之儀別紙ノ通出願致度旨申出候右者府
 下於テ別紙改由緒深キ神祠ニシテ區民之尊崇モ厚ク
 不相當ノ願意ニハ無之ト被考候加之靖國神社ハ別
 格其他

輦轂之下於テ官國幣社壹宇モ無之候ハ欠典ト云フ
 モ敢テ誣言ニ有之間敷旁願意御採用相成候様致度
 此段上申候也 十四年七月六日

東京府下永田町日枝神社ハ

後土御門天皇文明三年太田持資入道道灌武州豊島

郡千代田城即今ノ皇城是ナリ創築ノ始メ山城國愛

宕郡日枝社比叡山ト称ス

皇城镇護ノ神日枝神社今滋賀縣ニ属スノ分靈ヲ遷

シ當城ノ鎮守トシテ城内ニ鎮祭セシヲ起原トシテ

世々城中ニ鎮坐セリ

正親町天皇慶長十九年將軍德川家康公關東八州ニ

移封始テ入城ノ日拜禮ヲ遂ケ旧ニ依テ當城ノ鎮守

トシ仍城内ニ奉祭シ五石ノ地ヲ寄附シ毎年六月十

五日祭典ヲ攀城内龍ノ口ヨリ神輿乘舩八丁堀北島

旅所ニ於テ神事執行畢テ城内ハ歸社スルヲ以テ恒

例トス

後水尾天皇慶長年中將軍秀忠公當城ノ西明^明港^港公^公年

迄其遺跡小祠アリ今陸軍本病院ト華族内藤政舉ノ

邸ノ境ニ在シカ小祠ハ日枝神社瑞垣内ニ遷シ現今

内藤氏ノ邸域内ニ属ス元山王ノ地ニ遷坐

元和三年武州麻生郡ノ内ニ於テ百石ノ地ヲ寄附ス

明正天皇寛永十一年將軍家光公例年ノ祭典一層厚

ク可執行旨命アリ江戸一般ノ大祭ヲ行フ右祭事ニ

関カル所々東ハ傳馬所濱町ヲ限リ西ハ麴所飯田町

北ハ内神田方今萬世橋已南ノ旧称今仍内神田ト唱

フ南ハ芝口ヲ限リ城下町々ヲ産子地ト定ラル

同十二年六月五百石ヲ加ヘ合六百石ノ地ヲ寄附セ

ラル

明曆三年江戸城内外街衢ニ至マテ延燒當神社モ亦

其災ニ罹ル

後西天皇萬治二年將軍家綱公當山旧名星カ岡ト称
シ古来名勝ノ地ニ遷シ社殿樓門廻廊攝社祓所神饌
所等盡ク創造セラル現今ノ社殿是ナリ

同年四月二十五日遷坐式ヲ行ヒ將軍親カラ之ヲ慶
ス

仁孝天皇文政六年樓門廻廊祓所廻廊將軍家齊公造
營セラル現今ノ樓門廻廊祓所是ナリ

平素総テ破損ノ時々一々幕府ニ於テ修理ヲ加フ作
事奉行常係有リテ之ヲ管シ小破損ノ分ハ直ニ修繕
シテ而後ニ具申ス

代々將軍 宣下御禮濟心社參太刀神馬ヲ献ス將軍
家男子誕生ノ節モ必社參太刀神馬女子誕生ノ時ハ

神鏡ヲ献シ其度々社殿其他ノ修理ヲ加ヘ神德皇恩
ヲ謝スルヲ以テ永例トス以上維新以前ノ沿革ニ係ル

明治元年十一月八日被准 勅祭之神社神祇官直支配

同月五日官幣使 御參向御幣帛料御献備

十二月ヨリ月次御祈被仰付同三日月次御玉串献

上可致旨被仰出

同月四日還幸ノ御祈一社一同可抽丹精旨被仰出

一七間御祈禳御玉串献上

明治二年三月六日再御東幸之御祈被仰出一七日間祈

禳御玉串献上

同年六月十五日大祭神事御玉串献上

同年七月二日祈年祭御祈被仰出一七日間御祈禳

奉幣使參向 宣命御幣帛料御献備玉串献上

十一月廿二日中宮御所御玉串献上

明治三年正月廿日年頭御禮参賀被仰出

九月晦日神祇官直支配被為止東京府管轄被仰出

十月四日月次玉串献上

同閏月二日月次御玉串献上之義自今正月六月十

二月三度献上可致御祈之儀ハ是迄ノ通無懈怠可

抽丹精旨被仰出

明治四年旧朱印高五分通可下賜旨御達

明治七年旧朱印高五分通以遞減汰可下賜御達

明治十年以遞減汰任願一時可下附旨御達

右之通追々沿革有之候得共畢竟到底東京 皇城镇

守ノ神社々ルノ縁由實迹ハ歲月ヲ經テ蠹蝕セス人

為ヲ以テ撲滅スヘカラサル者顧フニ聖上光前耀後

ノ鴻業ヲ立サセラレ新々ニ東京ニ定昇シ賜フ上ハ

首トシテ皇城镇守ノ神社ヲ以テ官幣ノ社ニ御撰定

被為在然ル後諸府縣遠逸ノ神社御詮議可相成條理

順叙ニ有之候間方今建言迄ニ無之儀トハ信シ居候

得共忝ル明治五年間國幣社御撰定被仰出候節如前

文縁由正ノ理由已ムヲ得サル神社ニシテ御撰定ニ

漏候ハ當一社ノ遺憾ノミナラス

今上皇帝陛下御定昇ノ皇城固有ノ鎮守神社御崇敬

ノ御實蹟即チ光被ノ御洪業ヲ無窮ニ垂サセラルハ

億萬斯年ノ明徴ノ一端トナルヘキ社頭ヲ其俣府社

ノ末ニ閣カレ候ハ聖徳ノ一大御缺典臣子ノ至情黙

而止ムヘカラサル義ニ有之本邦士民ノ家ヲ觀ルニ

水草ヲ逐テ遷徙シ或ハ朝ニ家祖ヲ負ヒ夕ニ亡命ス

ル者ニ非サルヨリハ大小每家鎮守神有サル無シハ
俣食神即稻荷神社或ハ八苜モ祖々相傳テ一家ノ鎮
 守トスレハ逆子頑孫ニ非サルヨリハ一家主人タル
 者自ラ祭り親ラ拜セサル者アラムヤ
 或曰ク天子ハ四海ヲ以テ家トナス何ソ其居城ノ鎮
 守神ニ切々々ラムト是レ非ラ文リ君徳ヲ賊フ者ノ言
 ナリ果ノ此言ノ如クナラシメハ天子ハ天下ヲ以テ
 家トナス天下ノ老皆我カ老何ソ我カ家ノ老ノ切々
 ヲラント其老ヲ顧ス天下ノ幼皆我カ幼何ソ我カ家
 ノ幼ニ切々々ラムト其幼ヲ棄ルニ至ラム噫自ラ不
 孝不慈ニ居テ何ヲ以テ天下ヲ感化セムヤ且夫
 天皇陛下ノ宮ヲ皇宮ト称シ居テ皇居ト云城ヲ皇城
 ト称天下億兆ノ具瞻崇敬ニテ竊ニ恣ニ此ニ取ル可

ナリ

今皇城固有ノ鎮守神ヲ疏外ニシテ府縣ノ臣下ニ委
 シテ問ハサルハ士民ノ家傳來ノ鎮守神ナルヲ一切
 婢僕ニ委シテ顧サル者ト理勢一般ナリ若シ天下靡
 然斯風ヲ成ハ人々冥々ノ神理常ニ云天理ヲ顧サル
 ニ至ラム冥々ノ天理ヲ顧サレハ冥々ノ先君祖先ヲ
 蔑シテ顧サルニ至ラム冥々ノ先君祖先ヲ蔑視スル
 ニ慣レハ漸ク顯世ノ君上父祖ヲ蔑シテ顧サルニ至
 ラム而往弊害其底止スル所ヲ知ラス
 辱クモ金甌無瑕ノ聖徳上ニ知ラス慮ラズ履霜堅氷
 ノ漸ヲ復セ奉ルハ賢相良弼一日萬機及フニ違アラ
 スト雖柳飽マテ知ニ而言ス其職ニ居テ黙シテ而止
 ムハ愚臣等ノ罪ナリ是敢テ昧死上言スル所ナリ忝

クモ

神武天皇宇内ヲ平定シ賜ク首トシテ天神皇祖ヲ祭
大孝ヲ申ハ萬世ノ極則ヲ立賜フ聖子神孫継々承々
其遺法ヲ守賜フ是即寶祚ノ隆天壤ト無窮ナル所以
ナリ

桓武天皇平安城定昇ノ日日枝ノ山日枝神社當時山
王權現
ト稱スヲ以皇城鎮護神ト崇敬シ賜フ是

神武天皇ノ遺志ヲ擴充スル深旨ニシテ毫モ僧最澄
ノ言ニ籍ルニ非サルナリ如何トナレハ帝ノ時ニ當

テ僧尼ノ不律ヲ糾シ新ニ佛寺ヲ創建スルヲ禁ス
ル等叡明神武豈固願ノ説ニ関セムヤ然則日枝神社

ヲ皇城鎮護神ト崇ノ賜フハ冥々天神ノ真理ヲ信シ
テ上ハ皇祖神武天皇ノ懿業ヲ継キ下ハ億兆具瞻ノ

人心ニ答ル所以ナリ

尤滋賀縣下近江國滋賀郡坂本村日吉神社モ官幣大

社ニ被列候上ハ重複之様相唱候向モ有之哉俟得共
筑前國御笠郡大宰府社ハ本原ナレモ國幣小社ニテ

山城國葛野郡北野神社官幣中社ニ御撰定豊前國宇佐郡宇佐
神社山城國綴喜郡男山八幡宮ハ同神ニテ共ニ官幣

大社ニ列シ攝津國住吉郡住吉村住吉神社ハ官幣大
社ニテ壹岐寺岐郡住吉村住吉神社同神ニテ國幣

社ナリ此類枚舉ニ遑ララス右等ハ遺脱ノ罪ヲ掩フ
ニ足ラサルノ説況ヤ皇城ノ鎮守タル神社右等ノ現

由ニ関スル儀萬々無之ヲヤ
方今聖化漸洽ク藤森建勲豊國及名和菊池等之功臣

ノ旧社ハ勿論近ク靖國神社ニ至迄丈々官社ニ列セ

ラレ候至公至仁ノ御政体ニ對シ
今上新ニ東京御創定ノ御偉業ニ對シ以テ理勢ニ照
スニ以テ實迹ニ徴スルモ確明ナル皇城鎮守神社ニ
候得ハ特殊ノ御詮議ヲ以テ官幣大社ニ被仰出候様
仕度産子信待ハ勿論朝野一同奉希望候情状深御歎諒
被成下至急御指令相成候様仕度此段奉悃願候也

氷川神社宮司
兼日枝神社祠官

明治十四年六月
大教正平山省齋

内務卿松方正義殿

第二局議業

別紙内務省伺東京府々社日枝神社々格昇進ノ義ヲ
案スルニ該社ハ文明年間太田氏江戸城創築ノ際山



城國愛宕郡日枝山日枝神社ノ分靈ヲ遷シ鎮祭セシ
モノニシテ徳川氏代々ノ産土神タリ明治元年御東
幸ノ節神祇官直支配准勅祭ニ定メラレ後東京府管
轄ニ屬セシト雖モ尔来御玉串献上ヲ例トスルノ神
社ニシテ獨其由緒アルノミナラス府民ノ尊崇モ亦
格別ノ事ニ有之加之皇城固有ノ鎮守ナルヲ以テ特
殊ノ御崇敬在ラセラレ可然儀ト存候ニ付出格ノ御
詮議ヲ以テ該省申稟ノ通御裁可相成可然哉左案調
査仰高裁候也

十四年十二月廿三日會計
検査院及大藏省官内省通牒